

2015年度(第13回) 建築・住宅技術アイデアコンペ

提案タイトル		おもちゃいじりから継続した技術教育
提案概要 (200字程度)		本提案は、乳幼児のおもちゃいじりの延長で初等教育から高等教育までの継続した技術教育を提案する。その教育内容は衣食住の一つである「住」(建築)に特化して提案する。
提案ポイント	① 新規性	初等教育から遊びの延長として取り組みやすく「建築」カリキュラムを組み、将来の建築人材形成を促すという視点。
	② 実用性	① 常識にとらわれない子供の自由なアイデアや発想を育む ② その発想を吸い上げて今の建築業界の技術革新にもつなげる ③ 子どもが育ち後継者確保につなげる
	③ 実現可能性	玩具メーカーと指導に当たる建設業者にて教材となる道具を作り、産学協同により、教育大学の付属小学での試験授業を開始する事で年次に応じた教育方法、安全確保した教材を提供し実現を図る。塾などの習い事として転嫁も可能。
	④ 建築や社会に対するインパクト	日本の問題としての労働力確保と失業率低下、正規雇用の向上などにも寄与する。またロシアの政策にも典型的に見られるよう、子どもの頃から教わることで身近さや好意或いは興味を受容しやすい。社会における建築に対する身近さや興味が深まることは、就労ばかりでなく、住宅やその他建築への価値向上にも寄与し得る。結果的に不動産流通において建物の評価価値が上がったり、建築従事者の平均賃金が上がったりするなど、建築を取り巻く社会の好循環につながることも期待できる。

提案ポイントについて

- ① 新規性 : 「従来の建築・住宅技術」に対する新規性について述べて下さい。
- ② 実用性 : ご提案のアイデアが、学術研究や情報の蓄積や整理の範囲にとどまらず、都市・建築空間で実地に用いる、あるいは実際に役立つ点を述べて下さい。
- ③ 実現可能性 : ご提案のアイデアが、理論や知識と情報、組織や体制、資金などの面から、達成される見込み・見通しを述べて下さい。
- ④ 建築や社会に対するインパクト : 生活や産業経済、建築空間に対する影響など、研究目標が達成され、成果が実用化された場合の建築や社会に対するインパクトについて述べて下さい。

※ こちらにご記入頂いた内容も審査の対象となります。提案ポイント項目は審査評価基準に基づきます。

■現在の学習指導要領による技術教育

現在日本の学習指導要領における技術教育は、他の欧米諸国と比較し圧倒的に少ない現状がある。唯一必須科目として実施されている中等教育の過程では、技術・家庭として「1・2年 70時間、3年生 35時間」、そのうち技術科単体では「1・2年 35時間、3年生 17.5時間」となっており、時間的にも非常に少ない。

また、この時間の中で 4 分野(材料と加工(木材・金属など)、エネルギー変換(機械・電気)、生物育成(栽培・飼育)、情報(制御・プログラム・情報発信))を履修する事になっており、技術教育としては建築分野が含まれていない。

■ねらい 乳幼児のおもちゃとして、家や住生活に関わるものを模したものは多い。そうした

幼児体

験を遊びとして進化させる初等教育時において、中等教育やその後の専門的な高等教育につなげる為に興味を持続させることを目的とする。

■提案する技術教育

初等教育

- ・手を使ったモノづくりを中心とした教育
- ・つくったものの延長線にあるもの身近なものから探す。
- ・ものづくり現場の見学
- ・衣食住を中心とした技術教育



積木で作る家や街



ゴミで作る秘密基地



ダンボールハウスでの空間体験

中等教育

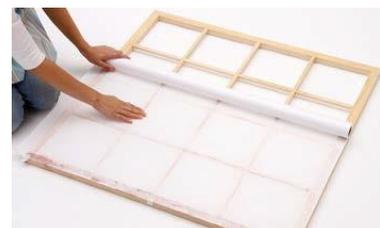
- ・分野で分けて教育するのではなくすべてがつながっている事を教育する。
- ・もの作り現場の就業体験



左官(かまどづくり)



内装(ペンキ塗り)



建具(障子貼り)

